

「時間を大切に」

校長 桐野 和之

「Time is money. (時は金なり)」は古くからのヨーロッパの諺だと思っていました。ところが、実はそうではなく、イギリスの小説家、リットン卿が書いた「Money」という作品の中の言葉だそうです。資本主義に徹し始めた実利主義的なイギリスの言葉です。

かつてはこの言葉によって時間厳守が勧められていました。しかし、文字どおり、現金な言葉なので、この頃はあまり引用される事が少ないようです。だからといって、時間を大切にする習慣が薄れては困ります。人との約束の時間に遅刻したら、相手の時間を奪ってしまうことにもなるのです。決して良い気持ちはしないでしょう。第一、こんな事を何度も繰り返せば、結局は信用を失うことになります。

「そんなことはわかっている。だけど、それは大人になってからきちんとやればいいんだ」と思っている人がいるかもしれません。しかし、子どもの時の習慣というのは家の土台みたいなものです。土台というのは表には見えませんが、建物をしっかり支える重要なものなのです。そして、「時間を守る」「挨拶ができる」「約束を守る」等の習慣を身につけるということは、まさに土台づくりなのです。また、あらゆることがチームを組んで仕事を進める時代においては、「時間を守る」等のことができない人は即、はじかれてしまうかもしれません。

相手のことを考える上で最も基本的なことが、この「時間を守る」、もっと広げて考えれば、「時間を大切にする」ことなのです。無論、「時間を大切にする」というのは、ただ、「時間を守る」ととどまらず、内容のことも含みます。

例えば会議。時間の開始時間を厳守するだけでなく、その内容についても時間を無駄に引き延ばさない心がけを常にもちたいものです。いわゆる「小田原評定」（豊臣秀吉に攻められた北条氏が小田原城の中で戦うか、降参するか議論しているうちに滅ぼされてしまったことから、結論の出ない会議のこと）はマイナスにこそなれ、決してプラスにならないと私は確信しています。授業も同様です。その内容をしっかり自分のものにしようと集中した時と、ただ聞き流し、時の流れに身を任せているのでは、同じ50分でも、まるで時間の価値が違います。

人間が平等に与えられているただ一つのものが「時間」。どんな人でも1日は24時間です。そして、だからこそ、時間はもっと有効に使いたいと思います。私はまだみたことがありませんが、ある大学の図書館の大時計には、「時は逃げ去る」という意味のラテン語が刻まれているそうです。全文は「時は逃げる。そして、決して帰らない」ということですが、心に刻みたい言葉です。



1年生鎌倉校外学習（9月15日）

源頼朝が幕府を開いた鎌倉の地を1年生が校外学習で訪れました。鎌倉は幕府が開かれて以降、政治、軍事、外交、文化などあらゆる面で日本の中心地となったところです。また、その頃、中国の宋や元との交易も盛んに行われ、禅宗、禅宗様建築、仏像彫刻、彫漆など様々な中国文化がもたらされた地でもあります。それらは長い年月のなかで守り続けられ、今日でも中世の社会を支えた繁栄の歴史と華やかな文化が伝えられる土地です。

ただ、校外学習の当日は非常に暑かったです。あまりにも暑く、生徒たちの熱中症が懸念される中での校外学習でした。

しかし、そのような中でも、多くの班が通過した鎌倉駅西口や鶴岡八幡宮の境内、小町通りや北鎌倉から鎌倉へ向かう道で見かける生徒たちは意外にも元気満々でした。

カメラを差し向けるとしっかりとポーズを取る。また、班できちんとまとまって行動する姿勢は大変良かったと思います。さらに、文化財に丁寧な視線を向けている子たちが多く、学習に対する意欲的な姿勢が感じられました。

班の中には「昼食で立ち寄ったお店の人の対応が冷たかった」と愚痴をこぼす人もいましたが、よくよく話を聞いてみると、取っている態度や行動は極めて紳士的で問題ありませんでした。

校外学習のねらいはあくまでも日常の学習や学校生活で学んだことを具体的に活かすことです。その目的が達成できていたと思います。その成果をこれからの学校生活に活用してほしいことと、2年後の修学旅行の場などで発揮してくれればと思います。



「今、卒業生は」

令和4年度卒業生

貫井中学校の生徒のみなさん、そして先生方、いかがお過ごしでしょうか。これから貫井中を支えていくみなさんに向けて、私が今伝えたいことをつづりたいと思います。

昨年度卒業した私たちは、3年間新型コロナウイルスと毎日闘って生活していました。入学式を行うことができたのは6月で、運動会や合唱コンクール、宿泊行事など、大切な思い出となる大きな行事が次々となくなっていました。行事が実施できることになっても、縮小した形になってしまうことが多かったです。私は、同級生や毎日私たちのために見守ってくださる先生方が、3年間楽しかったと思えるように、私なりに自分ができることを精一杯頑張りました。

1年生の頃は少し大変だなと感じることもありましたが、たくさんのことを経験していくうちに、誰かのために頑張るという楽しさに気づくことができ、「忙しい」が「楽しい」に変わっていきました。テストや行事、進路選択で忙しい時こそ、なにか小さなことでも行動を起こしてみたいと思います。私はその大切さを忘れずに3年間過ごすことができたので、中学校の思い出が、高校生になった今でも、恋しくなるほどとても素敵な思い出になりました。ですから、今この瞬間を大切にしたいです。

私がこれから頑張りたいと思うことは、自分がやりたいことを全力でやるということ



です。大人に近づいていくほど大変なことや辛いことが増えていくかもしれません。でも、好きなことをする自分は1番守ってあげなければならないと思います。だから、自分が決めてやりたいことを精一杯頑張ってみようと思います。3年生は進路選択について不安や悩みを抱える時期だと思います。私が3年生の頃、行きたい高校が11月まで決まらず、内心焦っている自分がいました。しかし、いろんな学校を知っていくうちに今の高校に行きたいと思うようになり、その高校の試験対策を始めました。それから学校生活との両立を図りながら必死に勉強して、第1志望の高校に合格することができました。自分と自分を信じてくれる人たちを信じて、乗り越えられることを願っています。そしてお世話になった人にはたくさん感謝して、行事を全力で楽しみ、これからも貫井中学校を支えていってください。心から応援しています。

令和4年度卒業生

この高校、楽しそう。それが、私の進路選択における全ての出発点でした。中学一年生の冬のある日、私はインターネットで見つけたとある高校に惚れ込みました。それから、ずっと私は志望校をそこ一つに絞り、他の進路については深く考えてきませんでした。



中学三年生の秋、予想外のことが起きました。ずっと進路については迷わないだろうと思っていたのに、やりたいことが重複して進路について突然迷ってしまいました。

私はそれまでずっと一つの高校だけの行事に参加してきたので、他の高校の詳細などについては何も知りませんでした。そして、私は他の高校について全く興味をもたなかったことをとても後悔しました。しばらく悩んだ結果、私は「高校でやりたいこと」を重視して進路について改めて考え、もともと行きたかった高校を志望することにしました。この経験から皆さんに伝えたい進路選択において重要なことは二つあります。

一つ目は、「高校については二校以上知っておくこと」です。私のように、進路について突然迷うこともあるので皆さんは注意してください。

二つ目は、「自分のやりたいことを優先すること」です。進路で迷ったら、自分がその進路先やその先の人生で何をしたいか、結論が出るまでじっくり考えてみてください。私は今、農業科の高校で、様々な実習や実験を通して農業や食品について、仲間と共に毎日楽しく学んでいます。さらに、授業や部活動などを通して普通教科に加え専門的な知識や技術を得ることもでき、充実した日々を送っています。また、出場が決定した農業の競技の全国大会に向けて日々励んでいます。

長期間の勉強、多忙な日々。受験生になりたくない、受験生って嫌だなど思っている方はたくさんいると思います。しかし、これは単なる「苦痛」ではなく、「夢を叶えるためのステップ」だと私は考えます。焦燥感や絶望感に振り回されることもあると思いますが、これを乗り越えた先の未来は本当に輝かしいものです。自らの夢をつかみ取るため、可能性を広げるために、無理をしすぎない程度に頑張ってください。応援しています。



令和5年度生徒会本部役員選挙（10月6日）

10月6日（金）に令和5年度生徒会本部役員選挙が実施されました。選挙に先立って立会演説会が実施され、立候補した生徒やその応援者たちは力強く自らの考えや立候補者を応援した理由等を全校生徒の前で演説してくれました。

立候補者たちは当日の立会演説会だけでなく、選挙に向けて毎朝、



生徒昇降口前に立って力強く投票を呼びかける演説も行っていました。立候補した人たちの主な動機を簡単に紹介します。

- ・生徒会員の前で緊張をなくし、前期に残った課題を無くしたい。
- ・放課後まで残り、影ながら努力する先輩、同級生の姿に強い憧れをもち、自分も皆のために何かしたいと思った
- ・誰かの青春や充実した日常を作りたい
- ・本部役員としての活動にとってもやりがいを感じ、また貫井中を支えていきたい
- ・今の本部役員の方々のように、冷静にトラブルの対処をできるようになり、自分の力で過ごしやすい学校をつくりたい
- ・本部役員の先輩方を見て、誰かのために働く充実した1年間を送りたい
- ・皆さんが少しでも過ごしやすい学校にしたい



教育実習（10月2日～）

10月2日（月）より貫井中学校に教育実習生が来ています。教育実習生に生徒たちの印象や実習の感想を簡単に語ってもらいました。

養護実習

貫井中学校での養護実習が始まって1週間が経ちました。朝礼や廊下での皆さんの元気なあいさつは私の緊張がほぐれることや毎日「頑張ろう!」と思えることが何度もあり、こわばった顔も自然と笑顔になり、すごく励みになっています。



私は、中学2年生の時に憧れの養護教諭に出会い、そこからずっと養護教諭になることを目指し勉強しています。私は、学校に通って友達や先生とお話したり勉強をしたりする毎日が好きだったので、教員側になったいま短い期間ではありますが、皆さんにも楽しい学校生活を送ってもらえるように何かサポートできたらと思っています。残り3週間一緒に楽しい学校生活を送りましょう。

家庭科実習

貫井中学校での教育実習が始まって、早くも1週間が経ちました。期待と緊張の中教育実習が始まり、最初に貫井中学校の生徒たちの自律性の高さに驚かされました。



自ら進んで、顔を見て明るく挨拶してくれる生徒や、自分の役割を当たり前になし、周りの友達が困っていたら手を差し伸べることができる、優しくて聡い生徒が多い印象を受けました。先生方とお話をさせていただく機会もあり、どんな立場の先生も生徒のために、貫井中学校のためにできること、やるべきことを第一優先に考えていて、愛情と熱意を持って生徒と接していることを実感し、教員として働くことの責任と楽しさを身をもって感じた1週間でした。

合唱コンクール近づく

10月10日（火）より全校一斉に合唱コンクールに向けた練習がスタートしました。校内は今、「歌声が響く学校」になっています。

実行委員会が作成したスローガンは、「奏響音穂」（ソウキョウネオン）です。コンクールはコロナ禍前の、全クラス、課題曲、自由曲を各1曲、計2曲歌います。練習の成果はいかに。思いっきり歌えるコンクールを生徒も先生も楽しみにしています。

